

令和5年度自己点検・評価の概要 (自己点検・評価報告会スライド資料)

令和6年2月21日



- **第4期中期目標期間2年目**
- **「未来創生大学」に向けてのいくつかの顕著な成果**
 - 高度情報専門人材
 - 地域中核・特色ある研究大学施設整備
 - 経済学研究科経営分析学専攻(MBAN)
 - 百周年記念事業
- **第4期中期目標の大きな項目**
 - 社会との共創
 - 教育
 - 研究
 - 業務運営

- **高度情報専門人材育成機能強化事業にハイレベル枠で採択**
 - データサイエンス(DS)研究科博士前期課程定員80名(R7)
 - 同時にDS学部の定員を150名
 - DS研究科担当教員を40名
- **地域中核・特色ある研究大学施設整備事業に採択**
 - イニシアティブ棟新営
 - 3階建て、2200m²
 - 社会連携拠点
 - 最先端研究+アート
- **経営分析学専攻の開設**
 - デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業に採択(昨年度)
 - 企業から強い関心
- **百周年記念事業**

- **大学独自の目標：データサイエンス・AIの社会実装の推進**
- **データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター**
- **国内最大規模の研究教育拠点**
 - **現在50名近くの専任教員**
 - ← **ハイレベル枠でさらに人員増**
 - **そのうち4割近くは外部資金による採用**
 - **外部資金獲得も拡大**
 - **管理機能の強化：URAの採用**
 - **施設制約の解消：イニシアティブ棟**

- **社会人のリスキリング**
 - 大学の新たな役割
 - データサイエンス研究科への企業派遣
 - 経済学研究科経営分析学専攻への企業派遣にも大きな手応え
 - 経済学部のビジネスサイエンスMOOC
- **地方創生**
 - キャンパスのイノベーション・コモンズ化
 - 大学発ベンチャー
 - 「データ・アート&サイエンス」をキーワードとした事業の始動
- **百周年事業の成功**
 - 大学と陵水会の連携
 - 募金目標達成
 - 11月4日記念式典

- **全学的な学部のデータサイエンス教育の体系化**
 - 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定
 - リテラシーレベル、応用基礎レベル
- **リベラルアーツ教育**
 - リベラルアーツ・STEAM教育研究センター
 - 3学部連携の「デザイン思考」開講
 - アントレプレナーシップセンター
- **学生へのサポート**
 - 海外研修ツアー
 - KINTOみらいファンド賞
- **生成AIの利活用**

- **データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター**
 - 個別課題の共同研究から、企業全体のDX支援へ
- **外部研究費による人件費等負担制度**
 - 競争的研究費の直接経費から研究代表者等の人件費を支出
 - 民間等との共同研究にもこの制度を適用
- **科研費申請及び獲得の支援**
 - 申請率・採択率の向上
- **学内の研究助成制度の再編**
 - 地方創生プロジェクト研究の戦略的推進
- **コンプライアンス：研究不正や研究費の不正使用防止**

- **コロナ5類移行後の業務の正常化**
- **対面の機会の確保とともにオンラインによる効率化**
- **情報インフラの充実によるDX化の推進**
- **2025年の教育学部150周年記念事業**
 - 大学として取組む
- **附属学校園の改組**

リベラルアーツ・STEAM教育研究センター

・全学共通教養科目クリエイティブ・スタディーズ分野

3学部教員が連携したPBL科目「デザイン思考」開講
(中期計画(7)実践型教育プログラムを全学的に充実)

・「未来創生リベラルアーツプログラム（仮称）」を構想

専門科目を意識し共通教養科目の学びを学生がデザイン
履修内容と意図を申告して認定を受ける

新領域「融合」を設けて「リベラルアーツ総合探究Ⅰ」（分野横断
型コラボ授業）と「リベラルアーツ総合探究Ⅱ」（PBL型グループ
ワーク授業）の2科目を新設 ⇒ 令和6年度中の導入を予定

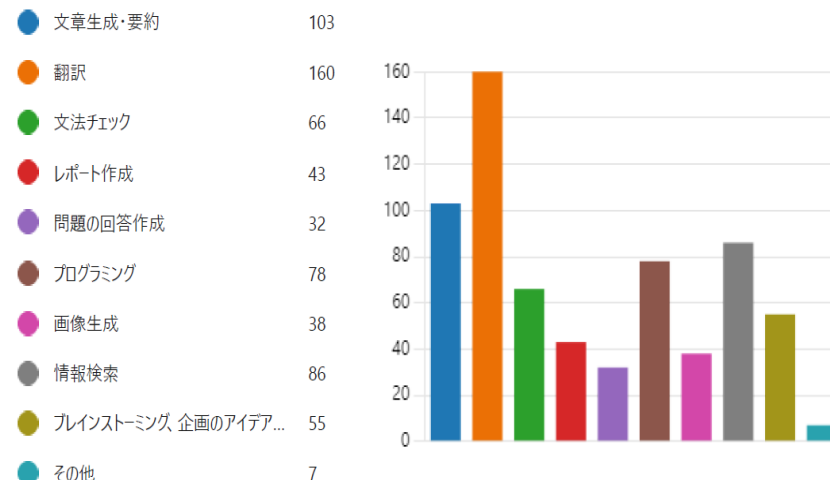
・リベラルアーツ×DS

数理・DS・AI教育プログラム

リテラシーレベル590名／応用基礎レベル（DS）34名を認定

・生成AIの利活用に向けて

教育改革フォーラム「生成AIをめぐる現状と滋賀大学の方針」
学生の生成AI利用状況Web調査



教育改革の推進

・FDセミナー

「ポストコロナを見据えた遠隔
授業に関する新たな取組」

・デジタルと掛ける

ダブルメジャー大学院教育

構築事業 準備が整い令和6年4月からプログラムを開始

学生支援

・「つづけるくん」等の経済支援

・課外活動の再開 新入生歓迎マラソン，滋和戦，学園祭…

・**課外活動による学長賞授与** 12月末時点で6名

・**学生自主企画プロジェクトの継続**

・**学生生活における注意喚起**

「キャッシュレス決済とクレジットについて」

熱中症対策講習会，危機管理講習会

衛生管理講習会，ハラスメント防止DVD視聴



学生自主企画プロジェクト
和菓子屋コラボ商品発売記者発表会

障がい学生支援室

・**相談／支援の状況** ※括弧内は令和4年度同時期の値

入学前事前相談 12名（7名）

在籍学生相談 154名（149名）

※保健管理センターのカウンセリングを含む
彦根601件（680件）、大津330件（424件）

配慮依頼発出件数 教育25（18）、経済19（30）、DS17（16）

研究の推進

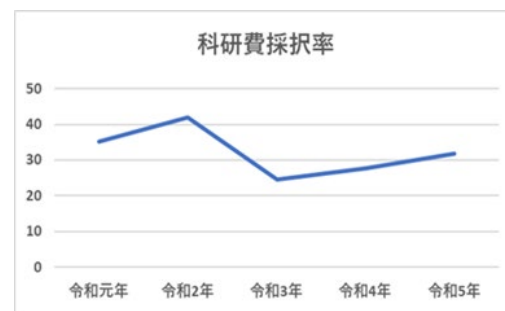
・科研費申請率・採択率の回復

申請率41.4%（前年比4.0 p 増）

採択率31.7%（前年比4.0 p 増）

・学長裁量経費による学内研究助成

応募件数は前年度より20件増（若手研究者 R4 0件 → R5 3件）



研究の支援

・研究インテグリティの確保

大学における安全保障輸出管理講演会（10/26）

JSTによる研究倫理に関する出前講習会（2/15）

「国立大学法人滋賀大学における研究インテグリティの確保に関する規程」

「国立大学法人滋賀大学データ管理・公開ポリシー」

研究倫理審査申請書の書式見直しを予定

環境総合研究センターの活動

研究年報／プロジェクト研究／公開研究会／社会貢献活動

協定校との交流

- ◇交換留学受入：毎学期10名程度をコンスタントに受入れ
- ◇交換留学派遣：協定校へ3名を派遣
トビタテ留学Japanで1名派遣（アフリカ・タンザニア）
- ◇短期研修受入：ディーキン大学スタディツアー、チェンマイ・ラジャパット大学スタディツアー等の受入
- ◇短期研修派遣：アメリカ語学研修、オーストラリア研究、韓国語学・文化研修、メキシコ語学・文化研修の実施
シリコンバレー研修（経済学部主催）、タイ・スタディツアー（DS学部主催）、
国際理解教育海外研修・大学院教育学研究科海外研修（教育学部主催）等の実施支援

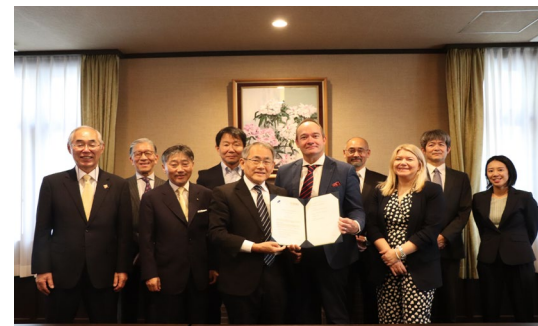


海外協定校の見直し・新規開拓

- ・本学学生が交換留学に行きたいと思う大学の模索（英語圏の大学等）
- ・研究者等の活発な交流を目指す

⇒ **SOAS University of London とのMOU締結**

教員・学生等の相互交流に期待



- ・今後、フロリダ大学（アメリカ）、マヒドン大学（タイ）、スコピエ大学（北マケドニア）等と締結予定

学生の国際交流への関心や国際感覚の醸成

- ◇ 学生参画型の学内セミナー：グローバルセミナーを開催
 - ⇒ 学内外・国内外の講師（多種多様な分野）による対話型セミナー

- ◇ 協定機関であるCIEE京都からの受入留学生と本学学生、附属学校園児童・生徒等との交流
 - ⇒ キャンパスの更なる国際化を目指して実施

- ◇ 海外研究者の招聘：大津キャンパスのグローバル人材育成強化の一環で招聘し、講演を依頼
 - ⇒ 教育学部の教職員・学生、附属学校園の教員等を対象に実施



今後の方向性

- ◎ 本学学生に適した大学との交流の推進を目指す
- ◎ 英語による講義科目の増加等、教育カリキュラムの見直しを目指す
- ◎ 留学生受入の実質化（宿舎問題等）、キャンパスの国際化・留学生の多様化等への対応



滋賀大学の国際戦略の構築 **:** **育成すべき人材像の確立**

令和5年度の新たな取組と成果

○産学公連携推進機構のビジョンの策定

「大学の知を社会に実装し、地域に貢献する」

- ・ 先進的な研究成果を活かし、地域の課題を解決する。
- ・ 地域の人材育成を通じ、地域社会に貢献する。

○滋賀県との連携強化：A I 勉強会の開催など

○滋賀大学発ベンチャーの新規認定

「滋賀大学発ベンチャー」として2つの企業を新たに認定

第4号「**ディナレッジ株式会社**」、第5号「**ミラカン合同会社**」

○学生発案による和菓子屋とのコラボ商品発売

令和3年度「アントレプレナーシップⅡ」でのビジネス提案をきっかけに、
学生が有限会社とも栄菓舗とのコラボ商品をプロデュース

○コスモエネルギーホールディングス、ドーモとのDX人材育成事業

○駐日ウクライナ特命全権大使による講演会の開催

○連携プラットフォームとしての協定

令和5年は新たに**13件**の連携協定・覚書を締結

→連携協定合計**152件** 【企業】81件 【学校等】24件 【官公庁等】44件 【その他】3件



滋賀県職員向けAI勉強会



ベンチャー認定発表会



コラボ商品発売発表会



ウクライナ大使講演会

アントレプレナーシップセンターの活動

- アントレプレナーシップ教育の展開
- 起業相談会の開催
- 大学発ベンチャーの支援
- 滋賀県信用保証協会との協定締結



滋賀県信用保証協会との協定締結発表会

地域連携教育推進センターの活動

- PBL型プロジェクト科目の開講
令和5年春学期5科目、夏季3科目、秋学期5科目
- 滋賀大学サステナウィーク2023の開催



プロジェクト科目「思わず欲しくなる自助具を作ろう」完成発表会

リカレント教育の推進

- ウェルネスツーリズムプロデューサー養成講座 など

SDG s の取組

- 映画「ヒゲの校長」上映会
- 子ども統計プログラミング教室

サステナウィーク 2023
11月27日(月)～12月1日(金)

サステナウィークとは、持続可能な社会に向けて様々なモノやコトについての「持続可能性」を考えてみる機会を、一週間に合わせて提供するイベントです。

I PICK UP! /

- ギャリア財団 びやうくり財団から送られた分を回収して、ギャリア財団やびやうくり財団に寄付します。
- UMOU プロジェクト 羽鳥布団、タウンシークレットを回収して、新しい羽織袴や浴衣へ寄付します。

テーマ **FIRST STEP!**

特に持続可能性を学べる企画やたくさん
中井君に聞いてみよう
学生団体の力で上げたい
豊富な経験を持つ
中井先生と自分たちの
のメッセージ

お問い合わせ先
〒525-8580 滋賀県彦根市彦根1-1-1
0749-27-1348



ウェルネスツーリズムプロデューサー養成講座 (テストツアー)

今から100年前、ろう者を守るため奔走した教師たちがいた。

ヒゲの校長
映画
Their quest is Ours. For the Deaf with Sign Language.

手話を守った一人の校長の物語

単刀方法
09:00 13:00

上映会場：滋賀大学 産学公連携推進センター
0749-27-1147 | info@shiga.ac.jp

入場無料
各団体員 150名
(先着順)

2023.11.19 [日]

① 09:00開演 09:30～12:00
② 13:00開演 13:30～16:00

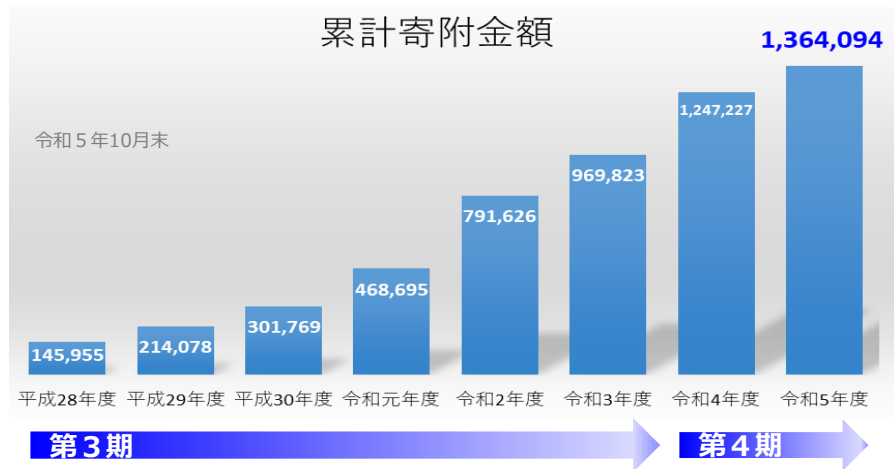
会場：滋賀大学講堂 (彦根市彦根1-1-1)
※会場には一般駐車場はありません。

プログラム (1 上映、2 上映後とも)
★「ヒゲの校長」上映
★ 講師：ウェルネスツーリズムの理念を伝える
Silent Voice 代表、尾中 友成 氏
「ヒゲの校長」の制作秘話や制作現場、
滋賀大学が取り組む社会連携推進活動、
産学公連携推進センターの活動について
中井 隆之介 氏、中井 隆之介 氏、中井 隆之介 氏
が、参加者の皆様と一緒に語り合います。

主催：滋賀大学 産学公連携推進センター
協賛：映画「ヒゲの校長」実行委員会 NPO法人 Silent Voice

第3期期首の9倍超

➔ 学生支援や教育研究に活用



◆ 「大学への寄附」の機運醸成

- ・ 滋賀大学ブランドの浸透
- ・ 高商100周年の寄附活動、教育学部・附属学校150周年に向けた寄附活動
- ・ 寄附環境の整備

滋賀大学基金

大学全般に係る寄附
(一般基金)

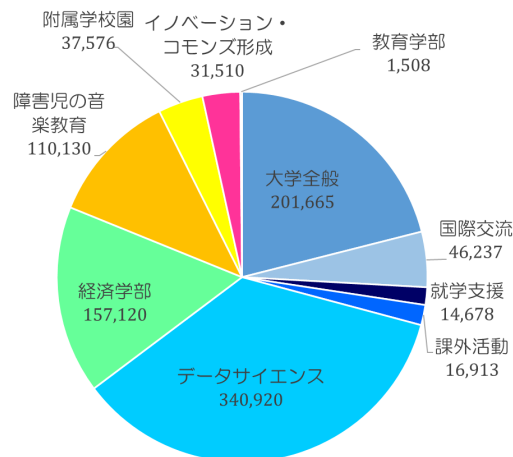
国際交流等の学生教育・学習支援、
産学公連携の推進、研究活動の促進・高度化等

特定基金

修学支援 事業基金	スポーツ 文化活動 基金	データ サイエンス 基金	経済学部 基金	附属学校園 いまを生きる 基金	藤村泰子 記念基金	データサイエンス・AIイノベーション・ロボティクス基金	教育学部 基金
--------------	--------------------	--------------------	------------	-----------------------	--------------	-----------------------------	------------

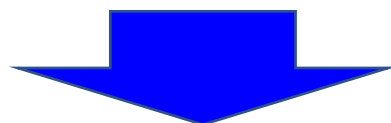
基金 目的・分野別寄附累計額

令和5年12月末



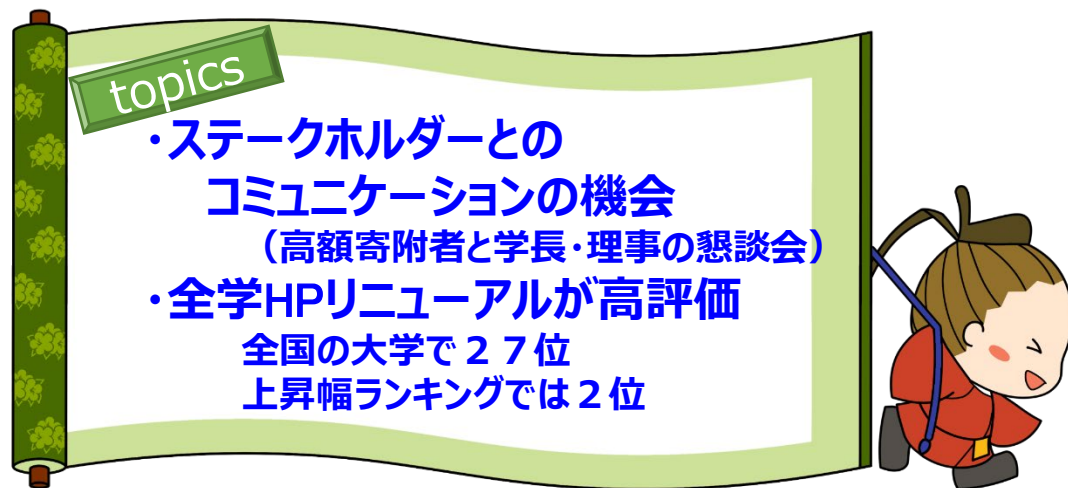
- コンセプト -

**時代にチャレンジする滋賀大チーム
学生や教員等などが活躍する姿**



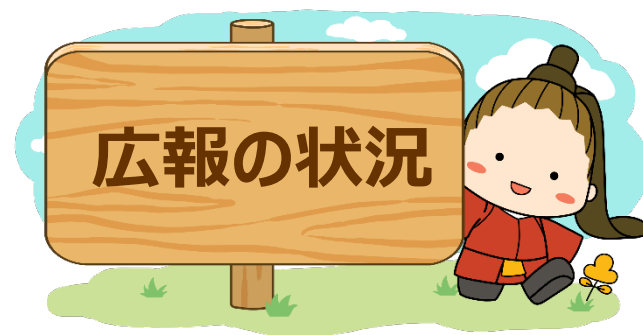
学生広報サポートチーム等

**滋賀大ブランド構築、 滋賀大ファン増大へ
受験生・産学公連携・寄付金等外部支援獲得**



topics

- ・ステークホルダーとの
コミュニケーションの機会
(高額寄附者と学長・理事の懇談会)
- ・全学HPリニューアルが高評価
全国の大学で27位
上昇幅ランキングでは2位



記事件数	令和5年度	令和4年度
	12月末時点	12月末時点
大学ホームページ	470	519
新聞 (含むネット)	326	409
テレビ	23	47
雑誌	44	42

Science for a better society

**滋賀大学は、データの時代に極度に不足する高度情報人材：
データサイエンティストの本格的な育成に取り組む「トップランナー」**

☆ **国内最高水準の教育プログラムの構築と実践**

DS基礎の総合的取得&実データでの多様な演習で実践力向上
、更に高度な知識と実践力の取得へと進むスパイラル

⇒ 米国の先進事例に比肩する高い質と効率的な教育
(教育&研究&コンサルの一体化)

☆ **これを可能とする国内最大のDS専門の研究者コミュニティ**

専任研究者50名+多数の企業客員研究員、インダストリアルアドバイザー

☆ **国内最大規模の多様で幅広い企業等との組織的連携**



卒業生・リスキリング・共同研究等への高い評価、
外部資金によるDS領域の急速な拡大と発展へ

☆ DSの教育水準を更に高めるプログラムの進化

AI・機械学習系科目の充実、R5に生成AI系科目を既に導入。
今後デジタルアート/デジタルデザインなどの導入も進める

☆ 社会進化を担うデータサイエンス高度基盤人財育成機能強化

国の政策に沿うハイレベルな人材育成の強化計画（別紙）

+ 柔軟で多様なリスキリング教育システムの拡大

☆ 社会と共創する往還型の教育・研究拠点への進化

⇒ 弛まぬ能力向上/課題解決のオープンサイエンスコミュニティの
形成

・更なる企業連携の深化

・卒業生・企業・教員等のDSコミュニティプラットフォーム構築予定

『未来創生のための価値創造の担い手＝高度データサイエンス・AI専門人材育成機能強化』

令和5年度から14年度までの主要計画（政府の高度情報専門人材育成機能強化事業を活用）



令和6

(2024)

令和7

(2025)

令和8
(2026)

令和9

(2027)

令和10
(2028)

令和11

(2029)

令和12
(2030)

令和13

(2031)

DS研究科
博士前期課程
40→50名

DS研究科
博士前期課程
50→80名

DS研究科
博士後期課程
3→6名

DS研究科
博士前期課程
80→100名

DS研究科
博士後期課程
6→8名

定員増のための
体制整備
DS・AI
イノベーション領
域の人員拡充

DS学部
100→150名
AIイノベーションコース

高専との連携
学部編入受入
定員5名

DS研究施設・設備整備

大学院DS研究科定員を**倍増以上に**
 博士前期 40名→100名
 博士後期 3名→ 8名
 DS学部定員 100名→150名
 研究科担当教員 28名→ 40名

全学的機能強化再編
の共通インフラ

滋賀大学は、DS領域のリーディング拠点として、自身の更なる高度化&実践的で本格的なDS教育の普及拡大のための活動を続け、未来創生のための価値創造に貢献していく。

☆滋賀大学のDS高度人材育成機能を更に強化するため取り組みを着実に進展させる。

☆「イニシアティブ棟」の整備を機に「社会と共創する往還型の教育・研究拠点」への進化を加速化させる。

☆DS教育の普及拡大のために多くの大学に対し行ってきたコンサルティング、教育プログラム・教材提供などの支援は更に展開

総務企画 ① 組織改革 各部署の改革をサポート



組織改革 高度情報人材育成機能強化

- ☆ 高度情報人材育成事業への申請 (採択)
DS研究科・学部への拡充
同教員 28→40への拡大を計画

DS学部50名増については、
経済学部(夜間主コースを想定)から振替

- ☆ 令和7年度の定員拡大・振替に向けて
文科省との協議調整



組織改革 附属学校園改組

- ☆ 持続可能な附属学校園の発展を目指す改組案の策定と遂行に向けて

- ☆ 持続可能な社会の作り手育成
- ☆ 教育におけるウェルビーイングの確保
環境 グローバル化 人口減少

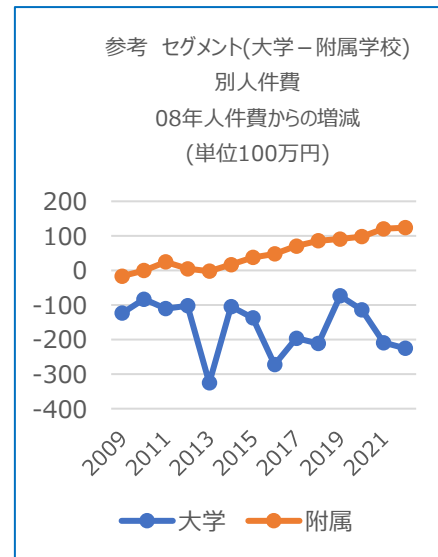
- ☆ 地域の教育をリードし続ける附属学校
PBL型授業, STEAM教育の展開等
- ☆ 一人一人の子供により向き合える教育

大学セグメントと比較し、
附属学校人件費の過大

教育研究に
かけられるリ
ソースの減少

柔軟性(レ
ジリエンス)
を持つ組
織体制が
必要

規模の縮小
により資源・
経費を抑制
しつつ「ゆとり」
を確保し、
令和の学校
教育を実現
できるリソース
を生み出す



- ☆ 中期計画 進捗状況の点検
- ☆ 教員個人評価 教員による自己点検報告書 提出率100%
- ☆ 自己点検評価報告会の充実に向けて 外部アドバイザーの参加により、
より幅広い視点からの点検評価

総務企画 ③ ガバナンス・内部統制等

- ☆ ガバナンスコード適合状況報告 ← 国立大学法人ガバナンスコードによる点検
経営人材育成方針の策定等の監事・経営協議会委員による指摘への対応が必要
- ☆ 内部統制報告 ← 国立大学法人滋賀大学業務方法書
(国立大学法人法により定めなければならないもの)による点検
- ☆ 内部質保証 ← 大学設置基準およびその認証評価の評価基準に即し、点検する活動
中期目標への取り組み、学部改組等の大学の改革の取り組みに即し、
点検項目を見直し進めている。
- ☆ 監事監査意見書による指摘事項への対応

総務企画 ④ リスク管理等

- ☆ 新型コロナウイルス感染症への対応 5月のいわゆる5類移行→リスク案件としての対応は一段落
- ☆ ハラスメント対応 人権委員会において、ケースごとに対応
ハラスメント研修、ケース共有の在り方の検討
- ☆ 「いじめ重大事態」 重大事態の疑いのあるケースは重大事態として対応

人事政策 ① 未来創生大学を担う教員体制の構築

第3期のイノベーション構想 経費抑制 + 教員の資源の再配分
 人員シーリング 高度情報専門人材育成事業 DS系40への拡大を構想

未来創生に資する滋賀大学の機能強化

機能・質を確保するための
人材活用の組織・枠組み

教育学部・経済学部
の機能確保・向上
(教育・研究の質保証)
全学的機構が担当する教育・研究支援の質確保・向上

人事政策 ② 経営人材育成

大学経営の環境変化 + 厳しい人員制約

- これまで運営を担ってきた教員の経営への意識、能力の向上
- 教職協働推進のための人材育成(改革を主導できる職員の育成)

育成のための
基本方針・プランの
策定

人事政策 ③ 改革を支える柔軟・多様な人事制度

- ☆ ダイバーシティの確保の対応(若手、女性の観点) 女性限定教員公募 若手教員比率目標
- ☆ 基幹教員制度への移行
- ☆ 柔軟で多様な人事制度 新しい職種(URA・高度専門職)の採用計画
 クロスアポイントメント制度…活用拡大が課題→特任教員への制度の拡大
 DSセンターは企業と兼職の特任教員採用(週1/2日本学勤務)の試みを開始
- ☆ 働き方改革に向けた取り組みとして、在宅勤務制度の導入

令和5年度学長裁量経費の配分について

基本理念

- 「令和4年度以降の予算編成の基本方針（令和4年3月18日役員会承認）」（抜粋）
 - ・第4期の中期目標・計画に盛り込んだ「未来創生大学」実現に向けて、本学が教育研究や社会との協働による社会変革の駆動的役割を十分果たしていく
 - ・学長のリーダーシップのもと、「未来創生大学」実現に向け、「ミッション実現戦略分」を含めた学長裁量経費を確保する。
- 学長の構想等を実現するための取組を推進する経費

財源及び配分方針

令和5年度予算：132,387千円

運営費交付金「ミッション実現戦略分」（31,679千円）
 基幹運営費交付金積算上の学長裁量経費（100,608千円）
 学内配分（100千円）

ミッション実現戦略事業 約34,000千円

社会的なインパクトの創出につながる事業

- ・対象部局：中期目標・計画担当部局である主担当の学部・機構（3学部・5機構）

配分額：	1年度当り配分額	1学部当り(研究科含)	1機構当り
		7,000千円+a※	2,000千円

※別途、成果指標に基づく学部インセンティブを配分（令和5年度は1学部当り1,000千円程度）

- ・事業期間：6年間（期間中は上記配分額を基本的に継続して配分）
- ・対象事業：中期目標・計画に基づいた社会的なインパクトの創出につながる事業を対象
- ・要求方法：対象部局において「対象事業」に該当する6年間のロードマップを指定（令和5年度以降は、原則要求不要）
- ・採択後の評価等：毎年の進捗については、自己点検・評価WGにおいて、特色ある取組や優れた成果等の特記事項（トピックス）を含め、中期目標・計画の進捗管理をもって確認

社会的インパクトについては、中間(4年目終了時)及び期末(6年間終了時)に国により評価され、第5期中期目標期間の配分に反映

戦略的プロジェクト 約99,000千円

①事業実施責任者の要求の中から学長が選定する事業

- ・要求者：事業実施責任者は部局長
- ・事業期間：1年（複数年にわたる支出が想定される経費には留意）
- ・対象事業：補助金や外部資金等の獲得に繋がる事業や戦略的取組事業を対象
- ・留意事項：1部局長当り1事業程度まで
内容及び金額については厳選すること
- ・採択後の評価等：実績報告書に基づき確認

②学長自らが企画する事業

令和6年度運営費交付金の概算要求等について

令和5年度予算

令和6年度予算措置

〔ミッション実現加速化経費〕

教育研究組織改革分	【組織整備】 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点（データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター）の形成」（継続：日本人教員2名、事業推進費(URA1名含)） 34,950千円 (拡充：日本人教員21名、事業推進費(URA21名相当分含)←内訳不明) 23,775千円
	【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』における、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 (継続：プロジェクト経費) 24,000千円 (拡充：プロジェクト経費) 24,000千円
	(概要) 「データサイエンス教育研究センター」を発展的に組織再編し「データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」を設置、産業界等との連携により蓄積したDS・AI研究の知見を基に、DS領域リーディング拠点として先端研究を国内外に展開し、DS/AI教育の学内外の司令塔として全世代に個別最適化されたDS・AI教育を展開する。
	各法人が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、その戦略的な強化に取組むことを後押しするための必要な経費 31,679千円

ミッション戦略分	各法人が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、その戦略的な強化に取組むことを後押しするための必要な経費 31,679千円
----------	--

〔共通政策課題分〕

数理・データサイエンス・AI教育強化分 「未来社会牽引DSエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校)	73,000千円
基盤的設備等整備分 措置なし	0円

合計 211,404千円

〔ミッション実現加速化経費〕

教育研究組織改革分	【組織整備】 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点（データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター）の形成」（継続：日本人教員3名、事業推進費 (URA2名相当含)） 58,725千円 (拡充：日本人教員1名、事業推進費) 14,975千円
	【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』における、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 (継続：プロジェクト経費) 48,000千円 (拡充：プロジェクト経費) 2,000千円
	(概要) 「データサイエンス教育研究センター」を発展的に組織再編し「データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター」を設置、産業界等との連携により蓄積したDS・AI研究の知見を基に、DS領域リーディング拠点として先端研究を国内外に展開し、DS/AI教育の学内外の司令塔として全世代に個別最適化されたDS・AI教育を展開する。
	各法人が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、その戦略的な強化に取組むことを後押しするための必要な経費 31,679千円

ミッション戦略分	※本経費は、第4期中期目標期間中、原則令和4年度の予算額で固定 31,679千円
----------	---

〔共通政策課題分〕

数理・データサイエンス・AI教育強化分 「未来社会牽引DSエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校)	73,000千円
基盤的設備等整備分 措置なし	0円

合計 228,379千円

I 令和5年度の進捗状況と点検・評価

①適切な施設の維持管理

(彦根) 第2校舎棟外壁等改修

(彦根) 福利施設厨房床等改修

(膳所) 給食調理室床等改修

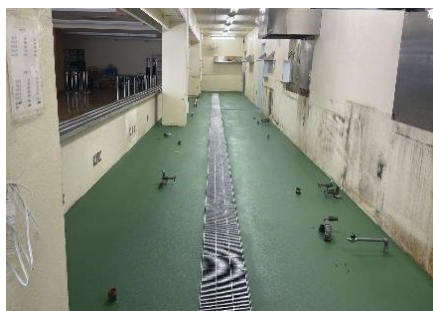
(石山) LAN盤改修



(彦根) 第2校舎棟外壁等改修
[外壁]



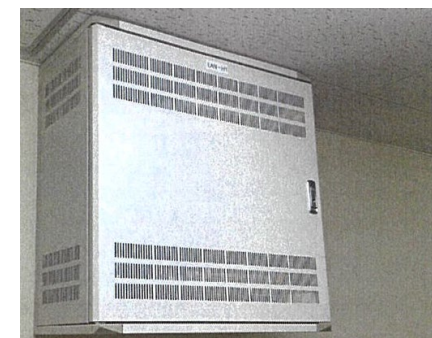
(彦根) 第2校舎棟外壁等改修
[防水]



(彦根) 福利施設厨房床等改修



(膳所) 給食調理室床等改修



(石山) LAN盤改修

②教育・研究環境の整備

- | | |
|---------------------|--------------|
| (あかね) 特別支援学校改修 (Ⅰ期) | 【令和6年3月完成予定】 |
| (彦根) イニシアティブ棟新営 | 【令和6年度実施予定】 |
| (石山) 自然科学棟改修 (Ⅱ期) | 【令和6年度実施予定】 |
| (あかね) 特別支援学校改修 (Ⅱ期) | 【令和6年度実施予定】 |



(あかね) 特別支援学校改修 (Ⅰ期)
【令和6年3月完成予定】



(あかね) 特別支援学校改修 (Ⅰ期)
【令和6年3月完成予定】



(彦根) イニシアティブ棟新営
【令和6年度実施予定】

③施設の有効活用 (講義室の稼働率) 令和5年度 47.9%

④省エネルギーの推進 (LED化の推進) 令和5年度 58.4%

Ⅱ 令和6年度以降に向けての課題と取組

施設整備費補助金等により、老朽施設の改修が進められてはいるものの、非常に多く発生する施設・設備の不具合や、各部局からの工事要望すべてに対応できない状況である。キャンパスマスタープランの見直しを行い、整備状況の確認を進めており、施設・設備の老朽状況を把握したうえで中期的な維持・補修計画を立案し、不具合箇所の補修を行う事後保全から、不具合の発生前に改善を進める予防保全への転換が図られるよう、限られた予算を有効的に活用する必要があると考えている。

入試

・学部入試の取組

各学部における総合型選抜の見直しが効果を発揮

経済学部：総合経済学科への期待

・大学院入試の現状と取組

教育学研究科：定員未充足

経済学研究科：経営分析学専攻の新設（定員6名に対して志願者7名）

データサイエンス研究科：定員の増員

・取組

効果的で積極的な広報、入試ミスの防止

高大連携

・取組

高大連携連続講座、大学・高校歓談会などの開催

・検討課題

IR室と共同した企画や立案、ICTを活用した高大連携の工夫



1. 教育活動

- 感染症対策：制限を設けず，ほぼ全ての科目を対面で実施
- 教育実習：予定どおり実施，小中連携の強化
- 教育プログラムの充実：教育データサイエンティストプログラムの見直し，ダイバーシティ科目群の制定，PBL教育の充実，STEAM教育の充実，教師インターンシッププログラムの見直し
- FD活動：FD講演会「国際理解教育を“自分ごと”にできる教員養成の取り組み」の実施

2. 研究活動

- 県教委との専門委員会の継続
- 地域共同研究の実施（30件）
- 自治体・教育機関・企業・団体等と協働した研究（12件）

3. 学生支援

- 新入生歓迎イベント，開学祭，学園祭の通常実施
- 教職セミナーの実施
- ラーニングコモンズの有効活用（作品展示）

1. 教育活動

- 感染症対策：学部と同様
- 教職大学院担当教員の増加
- 実習科目：研究者教員と実務家教員が協働して実施
- 教育データサイエンスに関する科目群の整備
- 附属教育データサイエンス実践センター の設置
- 滋賀県教育委員会との強固な連携

2. 研究活動

- 滋賀県総合教育センター研究発表大会における院生の発表
- データサイエンス教育の成果と課題の整理

3. 学生支援

- 教職大学院専任教員による就職支援
- オープンキャンパスではハイブリッド型の説明会を開催・現役の大学院生による相談会の開催

1. 附属学校園

- 実践に基づいた環境教育，理数教育，ICT活用能力等の推進：環境省との連携，SDGsの17目標を取り込み滋賀から世界へ，ICT活用，知財創造教育として内閣府との連携
- 外国語活動・英語学習の推進：留学生との交流活動（CIEE，タイ）
- 学部と連携・協力した教育研究活動の成果の地域への公開：県内の研修会への講師派遣，県内各所の授業研究会への講師派遣，授業公開
- 多様な児童生徒に対する実践的な教育実習

2. 教育実践総合センター

- 学生支援：教育実習支援，就職・キャリア教育支援
- 地域連携：地域の教育課題解決のためのコーディネート



3. 音楽教育支援センター

- アウトリーチ事業：特別支援学校等での音楽教育
- インリーチ事業：音楽療法や特別支援音楽教室
- 指導者研修会：指導者養成のための講師派遣，オンライン講習
- パイロットプログラム：先端研究の発信
- 多くの表彰を受賞・外部資金による自走化



1. 教育内容と実施体制

- 学部・教職大学院・連合博士課程の一体的な運営
- 教育プログラムの充実：数理・データサイエンス・AI教育プログラム，ダイバーシティ教育に関する専門科目群の充実，SDGs教育の充実，STEAM教育の充実，教師インターンシッププログラムの充実

2. 研究活動

- 地域が求める教育課題についての共同研究と成果発表
- 学部と附属学校の連携と学部教育への反映
- 自治体・教育機関・企業・団体等と協働した研究の充実

3. 地域連携

- 県教委との協議を通じて地域の教育課題に対応

4. 学生支援

- 教師インターンシップの検証と充実

教育における取組み

・総合経済学科の1学科体制

・データサイエンス教育 リテラシープラス 493名認定
データサイエンスコース 各学年40名

・グローバル人材育成 TOEIC-IP 約800名受験
英語による専門授業 8科目
グローバルコース 各学年40名

・地域で活躍する人材育成 プロジェクト科目 13科目
サステナウィークの開催

・専門性を高める教育 協力講義
報奨金制度=> 会計士、税理士、日商簿記検定1級、
証券アナリスト、統計検定など



研究の活性化に向けた取組み

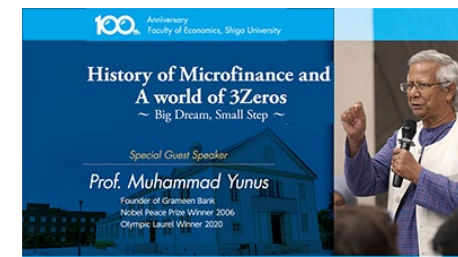
陵水会後援基金などによる学部独自の研究助成制度
外部資金等を基にした柔軟かつ機動的な研究支援策

入学者選抜

昼間主433名（定員410名）、夜間主44名（定員50名）、編入学23名（定員20名）

経済学部100周年に向けた取組み

記念式典/市民講座/ムハマド・ユヌス教授による記念講演



画像をクリックするとYouTubeの動画がひらきます。

来年度に向けた課題と取組み

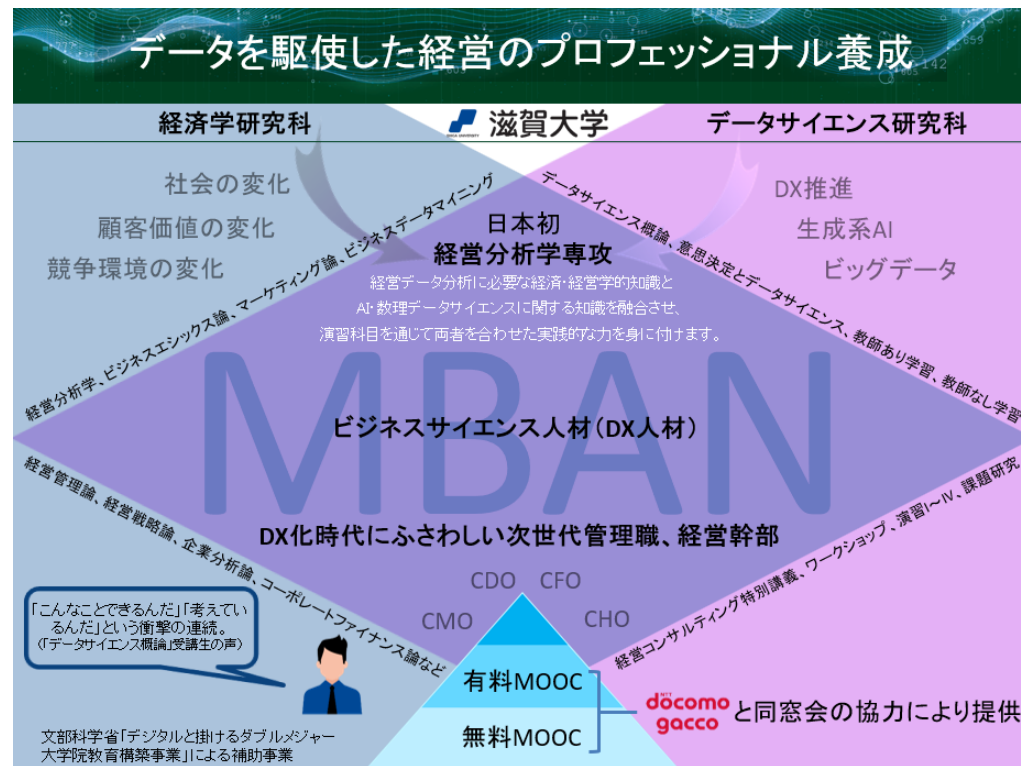
新カリキュラムの改善/夜間主の廃止に向けた準備
入試改革/履修証明プログラム/海外留学・海外研修・長期インターンシップ・プロジェクト科目の充実など

【日本初】経営分析学専攻の立ち上げ

滋賀大学大学院
経済学研究科経営分析学専攻
MBANコース

データを駆使した
経営のプロフェッショナル養成

日本初



- 特任教員の採用(4名)
- 30社あまりの企業訪問の実施
- 冬季試験ならびに2次募集の実施
- MOOC講座 (合計6講座) の開講

【課題】定員の安定的確保 ▶ 派遣社会人など国内学生の確保/オンライン授業や集中開講等の拡充/MOOC講座の拡充/履修証明プログラムの導入

経済経営研究所

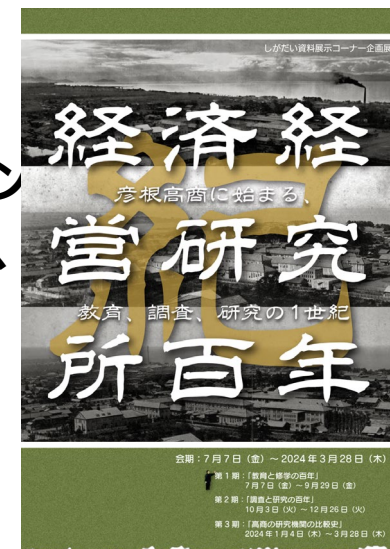
【現状】DS・AIイノベーション研究推進センターとのジョイントセミナー（リスク部門）/先端研究セミナー（先端研究部門）/データサイエンスの経営活用ほか（未来社会研究部門）/ディスカッションペーパー、彦根論叢、紀要、研究年報などの発行/企画展の開催/公募型研究助成の開始など

【課題】企業、商工会議所や周辺自治体と連携した共同研究事業や受託研究事業の支援機能を強化/他の附属施設等との連携による運営体制の見直しや再編を図ること

経済学部附属史料館

【現状】近江商人・近江系企業の調査・研究/国宝「菅浦文書」/史資料の収集の公開、研究成果の発信/県内外の研究・教育機関および各自治体との連携/史料館の国際化

【課題】寄附金等を活用し近江商人や滋賀銀行に関する史料の調査・整理/国宝「菅浦文書」/企業や地方自治体との連繫強化



- 原則対面授業に復帰、卒業レポート発表も対面で実施
- 生成AIの急速な普及に対応した授業
 - ・秋期データサイエンス特論B（授業題目：生成A I の理論と活用）
 - ・生成AIに関する授業（DS×芸術）の拡大
- 4年ぶりに海外スタディーツアーを実施
 - ・タイスタディーツアー：9日間、学部生6名・研究科生3名（DS教員3名）
 - ・Silicon Valley 研修：12日間、学部生2名・院生1名
- プログラミングコンテスト、データ分析コンテストでの学生の活躍
 - ・ICPC国際大学対抗プログラミングコンテスト（学部生）、
 - データビジネス創造コンテスト（院生）など
- 自主ゼミ&数学サポート
 - ・自主ゼミ：23のゼミを開講、数学サポート：院生 & 学部上級生が学部生の相談
- 企業と連携した教育
 - ・外部講師の招聘（R5年度延べ39人）
 - ・外部企業からのデータ・課題の提供の拡大
 - ・企業との共同研究等への学生の参加（院生では7割程度）

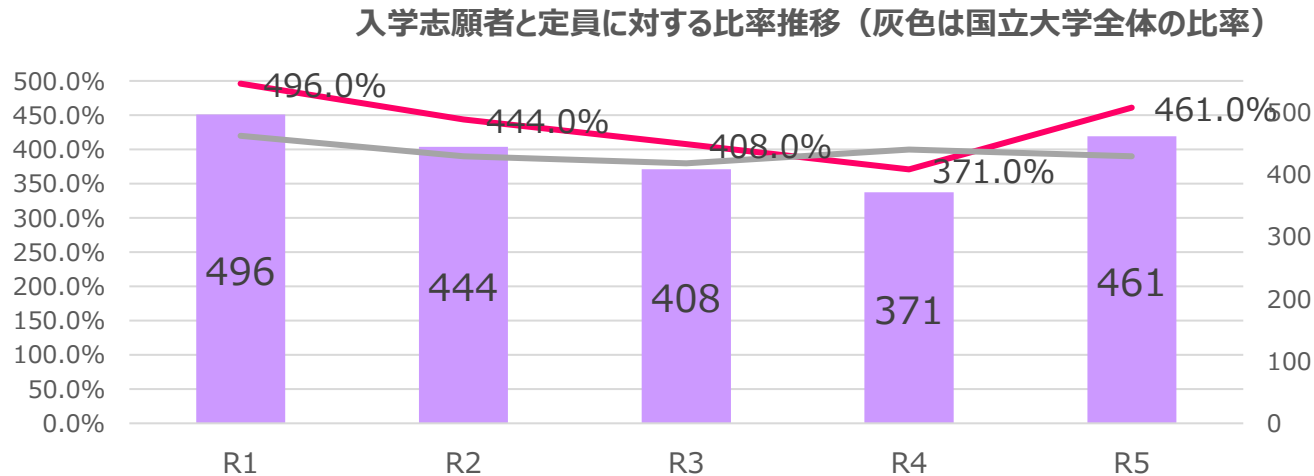
- 文部科学省「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援」事業（ハイレベル枠）
 - ・学部定員100名から150名に増加が決定（R7年度から）

- 高校訪問の受け入れと広報の強化
 - ・15の高校に対して学部説明、研究紹介等
 - ・各種媒体（受験生向け雑誌、DM、動画作成）での広報強化
 - ・京都新聞子供版にDSの面白さを伝えるマンガを連載開始
 - ・さらなる広報の強化。特にDSという学問がまだ高校で認知されていない

- 高専編入制度創設（R7年度から）
 - ・入試時期：R6年度6月＆9月
 - ・近隣の高専訪問＆説明会（オンライン）での広報

- 組織拡大に伴う教員の採用
 - ・2024年4月新規採用3名（社会調査系教員）
 - ・データサイエンス・AIイノベーション研究推進センターからの異動5名
 - ・公募による採用
 - ・生成AI・メディアアート分野や統計分野は、WGで候補者探し

□ 学部入試の状況



□ 第三期卒業生の進路

- ・情報通信産業35%、製造業28%、そのほか幅広い業種に就職（非IT系の増加）
就職決定率99%、大学院進学率19%。
- ・企業人事部の評価（日経調べ）上昇。関西地区で、6位に（前年度19位）

□ インターンシップ

- ・夏のインターンシップ。延べ15名の学生が参加。

- 文部科学省「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援」事業 (ハイレベル枠)
に選定: **高度データサイエンス・AI専門人材育成**
 - ・ 博士前期 定員増 7年度 80名 (11年度 100名): 現在40名
 - ・ 博士後期 定員増 9年度 6名 (13年度 8名) : 現在 3名

- 派遣社会人2回以上派遣: 16社・3団体
- 博士後期課程「**早期修了**」プログラムを開始
 - ・ 対象: 一定の研究業績や能力を有する社会人等
 - ・ 最短1年で修了可能

- 博士後期課程 **個別科学分野科目** 3科目**新設**+7年度より**講義動画公開**
 - ・ 製薬・ライフサイエンスとデータサイエンス
 - ・ 人文社会学とデータサイエンス
 - ・ IoTとデータサイエンス
 - ・ 文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化・数理・データサイエンス・AI教育の**全国展開の推進**」事業

- 大学院高度データ科学副プログラムを開始
 - ・ **教育・経済 (7年度より)**・DSの院生が受講可
 - ・ 大阪大学等とも連携

特筆すべき活動

- ・**学生図書の貸し出し冊数の上限引き上げ**
1～3回生の上限を5冊から10冊に（4回生と院生等是对応済み）
- ・**電子ブックの整備**
電子ブックの購入と利用の利点PR
- ・**経済学部百周年記念パネル展**
「附属図書館の追憶」
「Ex Libris 東アジアへの眼差し」
- ・**「国書データベース」に分館所蔵資料を公開（分館）**
彦根藩弘道館旧蔵書を含む古典籍・漢籍のデジタル化資料
- ・**購読電子ジャーナルの見直しとScienceDirect転換契約**
- ・**古本募金／図書・複写物取り寄せ費用応援キャンペーン**





SHIGA UNIVERSITY